

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス よよぎ松山校			
○保護者評価実施期間	R7年10月3日 ～ R7年10月25日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	40名	(回答者数)	35名
○従業者評価実施期間	R7年10月3日 ～ R7年10月25日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数)	10名
○事業者向け自己評価表作成日	R7年12月1日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者や学校、他事業所等こまめに連携をとり積極的に会議を行っている	電話やオフィシャルラインにて会議の日程を調整し、担当者会議や面談等を行っている。こどもの様子や支援内容について共有し、より良い支援に繋げている。 必要に応じて随時状況を報告し、支援の意図や目的を明確に伝えることで、安心感を持っていただけるよう努めている。	定期的に支援内容の振り返りや見直しを行い、こどもの成長段階に合わせて支援体制の強化を図っていく。 相談支援専門員にも相談やモニタリングなど情報提供を継続して行っていく。
2	活動に応じて環境を整えている	活動の目的に応じて空間を使い分けることで、遊びや運動に集中できるよう配慮している。 粗大運動や微細運動など活動に合わせて環境設定を工夫している。	空間の使い方や活動内容をさらに工夫し、こどもの特性に応じた過ごし方や活動の選択肢を増やすことを検討していく。 時間帯や活動内容に応じて柔軟にスペースを使い分け、集中できる環境づくりを継続していく。

3	こどもの特性や興味に合わせた多様な活動プログラムを実施している	こどもの意欲につながるよう、活動プログラムには季節ごとのイベントや行事を取り入れ、楽しみや見通しが持てる工夫をしている。 その日の目標を明確にするために「今日のやってみよう」を設定することで、活動を意識して過ごせるよう支援している。	活動の幅をさらに広げ、個別支援計画に沿った内容をより充実できるよう努めていく。 中高生には進路を見据えた内容を取り入れたりと年齢やニーズに対応して支援を提供する。
---	---------------------------------	---	--

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士で交流する機会が少ない	保護者同士の交流や情報交換の場が少ないため、家庭での支援の幅や方法の共有が十分に行えていない。	家族向けの支援プログラムを整備し、家庭でも実践しやすい関わり方や日常生活でのサポート方法を具体的に提供できるようにする。 また、保護者同士が交流できる場を設け、情報交換や悩みの共有ができる環境づくりを検討する。
2	支援終了後、その日のうちに振り返りを行うことが難しい	支援終了後は職員全員で集まるのが難しいため、翌日の朝礼時に情報共有を行っている。	簡易な記録方法やチェックリストを活用し、支援終了後でも最低限の情報整理ができる仕組みを整えられるよう努める。
3			